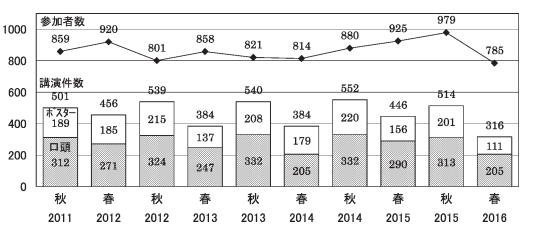
2016年度春季大会の報告

2016年度春季大会は，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2016年５月18日（水）～21日（土）に行われた．参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は785名で，過去５年間の大会で最も少なかった（第１図）．

２日目午後には，大ホールにおいて総会が開かれ，竹川暢之氏と三好建正氏に日本気象学会賞が，杉　正人氏と津田敏隆氏に藤原賞が，眞木雅之氏，上田　博氏，および中北英一氏に岸保賞がそれぞれ授与され，総会に続いて受賞者による記念講演が行われた．３日目午後には，同会場においてシンポジウム「竜巻の観測・予測の現状と将来」が開催され，５件の基調講演と参加者による討論が行われた．４日目には，気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションが開催された．ジュニアセッションは今大会で２度目の試みであり，前年度と同程度の計16件のポスター発表それぞれで熱心な議論が繰り広げられた．

大会期間中は，ポスターまたは口頭発表による一般講演，並びに特定のテーマに基づいてコンビーナーが編成する１件の専門分科会が行われた．一般講演の発表件数は303件（内訳はポスターが111件，口頭発表が192件），分科会は13件で計316件であった．



第１図　過去５年間の大会参加者数と講演件数（口頭，ポスター）．

会期中およびその前日には，教育と普及委員会による公開気象講演会「台風災害 ～台風列島でどう生き延びるのか？～」を含め，個別のテーマによる５件の講演会や研究連絡会も開かれた．

今大会の開催に当り，のべ22の企業・団体からご出展・ご協賛，ご協力を頂きました．厚く御礼申し上げます．

また，気象庁および周辺機関の皆様に大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに，ボランティアとして大会運営にご協力頂きました．ここに深く感謝の意を表します．

2016年６月　講演企画委員会